

2024 年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2025 年 3 月 9 日

発行人

日本基督教団 関東教区 埼玉地区委員会

委員長 栗原 清

入間市河原町 8-6

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/>

印刷所 (株)シャローム

新年合同礼拝報告

集まって一人の人のようになる

地区委員会

主の年2025年、1月13日(月)
10時30分から12時15分まで、聖学院
大学チャペルを会場として、埼玉地
区新年合同礼拝を行いました。

当日は朝からよい天気が与えられ
て、礼拝開始の10時30分が近づくに
つれ、聖学院大学のチャペルに続々
と人が集まってきました。今年は3
つのより区が一堂に会して、共に
主の御前に集い、主を礼拝しました。
この度の新年合同礼拝には、48教
会・伝道所より、199名(うち、子
どもが10名)が出席されました。

定刻になり、パイプオルガンの前
奏がチャペルに鳴り響き、礼拝が開
始。司式を佐藤美聡姉(坂戸いずみ教
会)、奏楽を赤田貴子姉(聖学院教会
会)、奉仕され、子どもへの説教を甲賀
正彦牧師(大宮教会)がされました。
甲賀牧師は、スクリーンに自分で作
成された絵をプロジェクターで映し
ながら、ルカによる福音書2章22
33節から「イエス様に出会う人」と
の説教をされました。子どもたちは
説教をお聞きした後、2階のホール
に移動し、教育委員会の担当される

子どもプログラムに参加しました。
かるた取りをする楽しい声が、階下
にも聞こえました。子どもの声が聞
こえる礼拝は、なんと豊かなお恵み
でしょう。

続いて、栗原清牧師(武蔵豊岡教
会)は、ローマの信徒への手紙12章
1-5節を「集まって一人の人のよ
うになる」と題して説教されまし
た。特に「献げる」との言葉を丁寧
に語られて、「イエス様が十字架に御
自身を献げてくださったお恵みに対
して、私たちも共に献げていき
たい。そのためには、お財布の中に
余っていたものをお献じするのでは
なく、祈って、備えて、少し痛みを覚
える位を献げましょう」と語られま
した。説教をお聞きして、応えられた
のでしょうか。このたびの席上献金
は18万560円と、例年よりも多く
献げられました。

説教の後には、子どもたちも礼拝堂
に戻って、聖餐式が行われました。司
式は横山基生牧師(志木教会)、その
補助を正田義也牧師(本庄)がされ
ました。コロナ禍を経て、違和感が薄
らいだプラスチック製の杯を使い、
共に聖餐のお恵みに与りました。

後奏の後、武田真治牧師に成人の
お祈りと、この1年間で受洗された

方のお祈りをいただきました。成人
はおらず、受洗者の2人が前に出て、
更にその場でお名前を聞いて出席さ
れていない受洗者のお祝いの祈り
をされました。その場でお名前を聞
いてお祈りをされるというやり方
は、これまででない方法で、牧会の愛
を感じるお祈りでした。

礼拝後には、会場の聖学院教会の
方々による炊き込みご飯とお吸い物
をいただき、霊の糧に加えて、肉の糧
も豊かにいただきました。共に集い、
神さまの言葉を聞き、地区の一致と
連帯が祈られ覚えられましたこと
を、感謝いたします。末尾になりました
が、赤田直樹先生、聖学院教会の
方々、各奉仕の皆さまに、感謝をいた
します。
(書記 町田さとみ)



にね

「がんがど
の段階で発
見されるか
も運ならば、
ベストフイット
の専門家にか
かることができるかどうか
も運かもしれません。仲野徹」
(朝日新聞の折々のことばより)

がんとは自分とは無関係のこと
であると思っていた。昨年6
月14日、妻に突然の不正多量
出血があり、近くの婦人科医
院を受診し、がんかもしれない
との診断を受け、早速専門
病院を受診した結果、初期の
子宮体がん(1a期)と診断
された。寝耳に水そのもの
だった。それから約2か月半、
種々の検査を受けて入院、開
腹手術。入院期間は8日間と
非常に短くあつたという間の出
来事でした。あれから約4か
月、元の職場に復帰すること
ができました。そうした折に
上記のことばに出会いまし
た。妻も私もまったくそのと
おりだと思わされた。近くの
婦人科の医師、初期のがんと
診断した施術の医師、麻酔医、
看護師、全くのベストフイッ
トでした。このベストフイッ
トを何と言おうか? 運と言お
うか?
私は躊躇いなく、摂理だと
言おう。神の守りがあつたれ
ばこそその出来事だったと言
うに憚りません。
(金刺泰雄)

アーモンドの会懇談会

埼玉新生教会 奥田 幸平



9月23

日(月)に
埼玉和光
教会を会

場に、第29回アーモンドの会(障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会)を「高齢化に伴う諸問題」をテーマに開催しました。出席者は21教会・伝道所、40名でした。

町田さとみ牧師(初雁教会)の司式・説教による開会礼拝に引き続き、2名の方に発題をお願いしました。

平澤昇牧師(埼玉新生教会)には、これまで牧された教会においての「高齢者や障がい者に対するケアや取り組みについて」を発題していただきました。新たな赴任先で「聞きずらさをおぼえる方にFMトランسمITTERを導入」、「これまで履き替えが当たり前と思われた礼拝堂を土足に変更する」等々……赴任し、新しい環境だからこそ、様々な気づきが与えられたことを話されました。

また児島康夫氏(キングス・ガーデン埼玉理事・前施設長)には、「高齢者も若者も、共に生き生き喜びをもつて生きる



ために」
との副題
で、発題い
ただきま

した。老若の間にある溝を埋める実践例として、ある教会の川柳大会の作品などの紹介がありました。ほかにも、「がん哲学外来@のぞみカフェ」を通して、教会が地域の方々から必要とされていると実感したこと、心を澄ませ相手の言葉を聴く習慣を学んだこと等を、巧妙な語り口で話されました。



講演の後、5つのグループに分かれて、講師が各グループを回る懇談形式でめぐみを分かち合いました。

また、懇談会は「ここだから話せる、聞いてもらえる」という雰囲気大切にしています。



教会音楽委員会

「音楽講習会報告」

埼玉新生教会 中村百合子

10月5日(土) 大宮教会小

礼拝堂のポジティブオルガンを用いて、大宮教会オルガンストの成田恵子先生を講師として「奏楽曲」についての教会音楽講習会を開きました。

雨模様にも関わらず、15教会31名の参加でした。

開会と閉会のお祈りは、教会音楽委員でもある、毛呂教会の澁谷実季先生にして頂きました。

成田先生から、礼拝奏楽での大切な心得を教えて頂きました。以下、「礼拝奏楽者の心得」のポイントを紹介しま

す。

☆神様への奉仕、信仰告白として奏する。

☆会衆と心を合わせ、神様を礼拝する。

☆礼拝全体を理解する。

☆教会暦を自覚する。

☆自分の出来る一番良いものを献げる。

奏楽者としての心構えを今一度、学ぶことが出来ました。その後、先生の用意してくださった楽譜で、実技の講習をして頂きました。講習では、



ポジティブオルガンの素敵な音色も味わわせて頂きました。

その楽譜の中には、成田先生の編集された『短いオルガン曲集』(日本キリスト教団出版局)からの楽譜もありました。これは、まだ海外の楽譜が手に入りづらかった1987年初版の曲集ですが、版を重ねて未だに売れているそうです！

また、成田先生が大宮教会にいられてから、先生から指導を受けた埼玉地区の奏楽者は大勢います！

今回の実り豊かな講習会と共に、成田先生の教会音楽と埼玉地区へのご貢献を、今更ながらに感謝致しました。



CSせいと大会報告

東所沢教会 指方 周平

10月14日(月) 武蔵丘陵森林

公園を会場に、第55回CSせいと大会が開催されました。昨年は雨で中止になってしまいましたが、今年は見事な快晴の下、14教会・伝道所から62名の仲間が集められました。

開会礼拝では指方周平牧師(東所沢)がヨハネによる福音書15章1節より「主にある交わりを深めよう」と題して説教をしました。礼拝後は正田義也牧師(本庄)のリードで参加教会・伝道所による自己紹介タイム。「白岡菖蒲教会の建物は元々何屋さんだったか」「所沢みくに教会の窓は何枚か」など、ユニークなクイズが分かち合われました。それから皆でお弁当をいただきました。実にコロナ禍前の2019年以来、5年ぶりのお弁当タイムでした。お腹が一杯になった後は森林公園名物のぼんぼこマウンテン(日本一大きなエアトランポリン)で飛び跳ねたり、秋の花で彩られた園内を散策したりと、各々の自由時間を満喫。午後のレクリエーションタイムは竹内真理牧師(深谷西島)のリードで、恒例の「だるまさん



が転んだ」も行われました。そして最後は、山岡創牧師（坂戸いずみ）によるお祈りで締めくくられました。

久しぶりの再会、初めての出会いに恵まれ、帰る時には新しい友だちが増えていました。イエスさまに結ばれていることは私たちの力の源ですが、私たちが友だちとつながっていくことも神さまの世界が広がっていくことなんだろうなあと教えられた1日でした。CSせいと大会のために思いを寄せ、祈りを合わせてくださった皆様、ありがとうございました。

伝道懇談会の報告

初雁教会 町田さとみ

私の記憶が確かならば、2015年度あたり、川染三郎先生が地区委員長をされていた頃に、本懇談会は「地区小規模教会・伝道所伝道協議会」という名前に変更されました。あれから時を経て、今年度から従来の名称「地区伝道懇談会」に戻し、その内容も「現状を伺うもの」としての懇談会を行いました。

11月5日（火）13時～15時、加須教会を会場として、伝道懇談会を開催しました。13教会・伝道所より、教師13名、信徒3名、計16名が参加しました。

最初に、開会礼拝を献げました。武田真治牧師（上尾合同）より、説教をいただきました。先ず神様の言葉を聞き、主を礼拝することの大切さを覚えしました。

懇談会は、町田牧師の司会のもと、3部構成で懇談し合いました。

①最初にそれぞれの「現状」。高齢化が加速して、礼拝出席者数が減少。若い世代、子どもがいないなど、年齢層の偏りを分かち合う声が多くありました。その中で、家族に送迎をしてもら

いながら礼拝に出席する姿や、活き活きと教会生活を送る皆さんの姿に励まされるという言葉も聞かれました。

②次に「課題を探る」。現状から、教会が前に向かうための課題を探りました。次の世代への伝道、高齢化への対応はどうするか？という課題が投げかけられる中、「自分は、これまでの先輩信徒たちがしてきた、やるべきことをしているだろうか？と考えさせられている」と信徒の方が発言されました。



これを機に、空気が変わり、前向きな視点が加わり、「教会の規模は関係なく、伝道は必須」と認識し合いました。

③最後に「夢」を語ろう。課題を踏まえながら、夢（ビジョン）を語り合いました。若い世代、子どもたちへ福音を伝える。地域で教会が証しを立てる。中には、10年内に教会堂を建築し、後任者に引き継ぐ、という積極的な夢も出てきました。イエス様を主とする教会は、福音を語り続けることが大切。祈って、益々伝道に励もう！と締めくくられ、力をいただきました。

（地区書記）

拡大教師会

教師委員会 渡邊 典子

私たちは普段、1区・2区・3区ごとに最寄り区教師会を行っていますが、数年前から年に1度、いずれかの区の教師会に一同集い、互いの教師会の恵みを分かち合うという拡大教師会が始められました。コロナ禍以来、昨年度から再開され、今年度は1区に集うことを計画しました。1月25日（月）午後1時半～3時半、越谷教会にて、13名、11教会の参加でした。

今回は少なかったです。

礼拝は、西川口教会の金田佐久子牧師。ヨハネ6・16～21から、この世の荒波に翻弄される私たちに向かって、復活の主が「わたしたち」と宣言し出会ってください、その隣れみと力強さが迫ってくる御言葉をいただきました。

講演は、春日部教会の平澤巧牧師「トーマス・F・トールンにおける神学的科学」でした。神学的科学とは対象の实在性を根拠とする科学方法を神学に適用したもので、神学が諸科学と共にこの世界の現実に取り組むことへ道を開いたと学びました。また、永遠の昔からなる神の三位一体論的存在概念について思い巡らす時を与えられ、神がこの歴史と人類と宇宙を創造・救済・完成する救済史的現実の中で私たちを生かしてくださる恵みに改めて感謝でした。

懇談では、越谷教会の須賀工牧師により越谷教会の歴史、現在の課題や伝道の取り組みが話されました。その後、教区地区からの報告、各教会の近況報告、祈りで散会しました。主が私たちを、また新たな伝道牧会へと押し出してくださる中、帰路につきました。

合同教師会

教師委員会 渡邊 典子

1月27日(月) 午前10時半～午後3時半、東松山教会を会場に17教会・伝道所、21名の参加で5年ぶりに行われました。(準備担当は2区)

礼拝はルカ福音書13章6～9節のいちじくの木のとえの御言葉に聞きました。イエス様は、私たちが悔い改めの実を結ぶことを決して諦めず、今もご自身の命による愛と赦しと救いの肥やしを注ぎ続けておられます。その恵みに確信を置いて、福音宣教に励んで参りたいです。

ワークショップは指方周平師により、4グループに分かれて御言葉への沈潜と黙想、分かち合い、祈りの時を持ちました。御言葉の交わりを深める中で、新たに地区の一致と連帯、福音の前進に仕えていく思いを新たにされ、豊かな時をいただきました。

昼食はボリューム満点のお弁当、東松山特産の焼き鳥、お手製のキムチで、食べきれずお持ち帰りの人が続出でした。ご準備くださった会場教会の皆様に感謝です。合間に、異動など諸報告がありました。



午後は徒歩と車1台で、東松山福音教会・岡山英雄師と東松山聖ルカ教会・ヨハネ小野寺講師を訪ね、教会の歴史や宣教の働きや課題など伺いました。教派は違えども主が教会に託された宣教の使命に立ち返ることができました。

会場に戻って崔長壽牧師により東松山教会の歴史を聞き、山岡創師の祈禱で閉会しました。楽しく恵みに満ちた会でした。地区教会が主から受けた救いの福音を、賜物に応じて世に宣教する勇気と知恵を祈り求めつつ感謝して、次年度は3区担当です。

教会紹介



白岡伝道所

佐藤さゆり

私が代務者としてお仕えしている白岡伝道所は、今年で創立39周年を迎えます。平均年齢48歳という若さ溢れる教会です。教会員は13名、6家族が礼拝をささげています。中には3世代で集まっている家庭もあります。客員は3名、求道者は2名です。CSは、高校科5名、中学科5名、小学科6名の子ども達が一緒にいます。毎週、子どもと一緒に礼拝を10時半から行い、その中の讃美歌の1曲は、伝道所創立者の福島聖二牧師が、ヨハネによる福音書に基づき作詞・作曲した子ども讃美歌を歌っています。礼拝後には、子ども達の分級と婦人を中心とした家庭集会があり、楽しいひと時を持っています。

福島聖二牧師、英子牧師は、「白岡に幼稚園を」という保護者や地域の方々の願いを聞き、白岡伝道の幻を見ました。「ひかりひかり わたくしたちはひかりのこども ひかり



のように あかるいこどもいつもあかるく うたいましょう」(こどもさんびか52番)。幼稚園をパラダイスにし、ひいては地域をパラダイスにしたいという両牧師の方針に基づき、1964年白岡の地に念願の青荻幼稚園が開園しました。その後、1985年に白岡伝道所が設立されました。現在まで、幼稚園の礼拝堂をお借りして、礼拝をささげています。

今年のクリスマスは、5年振りに、礼拝後、愛餐会を持ちます。クリスマスの祝いとして、トーンチャイムや特別賛美、聖誕劇、ゲームをおこなう予定です。(この原稿は2024年10月に書かれたものです)

ベウラ教会

飯島伊美子

ベウラ教会は65年前に、既に召されました石川喜一牧師が「板橋北伝道所」を開拓され、後に「板橋ベウラ教会」となり、35年前に新座市への移転と共に「ベウラ教会」と改称しました。「ベウラ」とは、文語訳聖書イザヤ書62章4節の「汝の地を、ベウラ(配偶)ととなふべし」からの命名です。

3年前に石川牧師が召天された後、10名以上の信徒が教会を離れ、数名の信徒が教会全般を担うこととなりました。

教区・地区との関わりや教会役員会の在り方も分からない状態でしたが、代務者の竹内成子先生(深谷西島教会)のご指導により、少しずつ理解してきました。

「何よりも日曜日の礼拝を大切に」との励ましを受け、大海に乗り出す小舟のような教会活動が始まりました。高額になっていた教区負担金の納入には、教区緊急互助支援金等で2年にわたり援助して頂きまして、小さき群れへの大きな助けを感謝しております。また、教区や地区より問安してくださり、ご心配と細やかなご配



慮にも助けられました。本当に右も左も分らない状態をお助け頂き、心より感謝致します。

現在の主日礼拝は、毎月3回くらいは関係団体「活水の群」の牧師が、第4週は最上光宏教団隠退牧師が説教してくださり、賛美に溢れた礼拝を献げております。

礼拝出席者の中には、病気で「命がけで礼拝に出席します」という方や、怪我をしても「礼拝と聖餐式に出席したい」と願う方がいて、教会役員の車の送迎で出席されています。小さい教会ですが、互いに助け支えあう心と教会とされています。どうぞ、小さき教会のためにお祈りを願います。

信教の自由と平和を 求める2・11集会



地区書記 町田さとみ

2月11日(火) 15時から16時30分を予定に(実際には17時15分まで行われた)、大宮教会にて、「平和のために祈ろう」(Pray for Shalom)とのテーマであった。

講演者は安田眞先生。アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団、川口神召教会の牧師で、以前イスラエルで10年程暮らしながら、ヘブル語と聖書地史を学ばれた方である。

講演の前半は、プロジェクトを用いて、イスラエルの風景を観ながらの講演だった。歴史の中で土と瓦礫で埋もれた町、銃弾の痕の残る家々の壁、一歩先は地雷が埋められた危険地帯。繰り返し返される戦いの歴史と、今も続く命の危険を見た。

講演会の後半は、一度消滅したイスラエルが第2次世界

大戦後、イギリスを中心として、1948年には再建されたこと。その後、イスラエルとパレスチナ(に限らないが)の間では何度も戦いやテロが繰り返されたこと。そして、連立政権によって、右派左派とのバランスを取り折り合いをつけながら、今も難しい政局の中に置かれていることを、講演をとおして語られた。安田先生は「今言えることは、戦いという面では建国以降戦いは続いているし、戦いの無い平和はイスラエルにはこれまでに無かった。今後も、平和を実現する努力は続く。イスラエルとガザの戦いが終結するにはお互いの人質のこともあり、簡単にはいかない。」ということだった。日本とは違う地続きの国々が、平和を実現することの困難を垣間見た。

「この争いを治める鍵は仲介者。かつてのエジプトのサダト大統領のような仲介者が必要。私たちも、仲介者イエス・キリストの名によって執り成しの祈りを祈り続けることが大事」。

講演後、幾つかの質疑応答の後、2人の方にお祈り頂き、主の祈りをもって講演を終えた。17教会・伝道所68名出席。

2025年度埼玉地区教会 全体修養会のご案内

埼玉地区委員長 栗原 清



木村利人先生

日程 2025年8月8日(金)
13時から9日(土)11時30分まで

会場 軽井沢「南ヶ丘倶楽部」
講師 木村利人先生(早稲田大学名誉教授・霊南坂教会員)
主題「幸せなら手をたたこう」
— 幸せなら態度で示そう。神のもとにある平和 —

御言葉「すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ。主はいと高き神、畏るべき方、全地に君臨される偉大な王。(詩編47編・2・3節)」
「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5章9節)」

地区教会全体修養会への招き
埼玉地区では、隔年で埼玉地区教会全体修養会を開催して来ましたが、コロナ禍によ

り2019年度を最後に中断せざるを得なくなりました。現在、コロナウイルスは5類となり、地区の活動も少しずつ回復傾向にあります。埼玉地区教会全体修養会は、2025年度に5年ぶりの開催となります。再開にあたり、従来2泊3日で行われていたプログラムは、少し短縮して1泊2日としました。

神さまのもとにある主の教会、命の大切さ、平和の大切さを、「幸せなら手をたたこう」の作詞者であり、生命倫理を専門とされる木村利人先生より御講演を賜り、「神さまから賜った命と信仰、その信仰共同体である主の教会の大切さ、礼拝から遣わされるキリスト者一人ひとりが平和を形作る者とされる」ことを、来夏、軽井沢にある南ヶ丘倶楽部で学んで参りましょう。どうぞ、主にある兄弟姉妹、ご家族単位でもご参加ください。こどもプログラムも用意いたします。

どうぞ、今からご予約ください。夏に緑豊かで爽やかな軽井沢で主にある皆様とお会できることを心から願っています。

(教会全体修養会委員長)

地区委員会報告

2024年度第4回委員会

日時 9月10日 (火)

会場 大宮教会、出席11人

●主な報告

一、地区内の教会・教師の報告

①代務者…

・埼玉中国語伝道所…田中
かおる先生、桶川伝道所…栗
原清先生。

②教会記録審査

8月14日 (水) 地区委員と教
師委員とで(計12人)行った。

③互助申請に関する件

・七里教会／教区伝道資金援
助 5万円・東松山教会／教区伝道資金
援助 5万円

④平和を求める8・15集会

・日時と会場…8月15日 (木)
10時半～12時。埼玉新生教
会。・講師者とテーマ…木村利人
先生「幸せなら手をたたこ
う」。

・参加47人、22教会伝道所

以上、承認した。

●主な協議事項

一、地区委員会主催集会に関す
る件①小規模教会・伝道所伝道懇
談会・日時 11月5日 (火) 13時
・会場 加須教会

・開会礼拝 武田真治牧師

・テーマ「小規模教会の伝道」
の現状と展望を語り合う。

②新年合同礼拝

・今年度は三区揃っての開催
とし、地区委員会が主催す
る。・日時 2025年1月13日
(月) 10時30分～12時

・会場 聖学院大学チャペル

③地区総会協議会

・日時 2025年2月11日
(火) 18時～20時

・会場 大宮教会

・内容 次年度の組織と予定、
会計報告と予算案について。

以上、①から③を可決した。

二、地区総会付託議案に関する
件①議案第10号…次回地区総会
会場の件
・会場 上尾合同教会
以上、可決した。

2024年度第5回委員会

日時 11月5日 (火)

会場 大宮教会、出席10人

●主な報告

一、地区内の教会・教師の報告

①懇談報告…埼玉中国語伝道
所、桶川伝道所
二、小規模教会・伝道所伝道懇談会
加須教会にて17人、14教会・
伝道所が参加。

②問安報告と予定

・秩父教会 10月2日 (水)
・加須教会 11月5日 (火)

・ベウラ教会 11月8日 (金)

三、互助申請に関する件

①朝霞教会と日野原記念上尾
栄光教会より、特定規模教会
負担金減免申請。②和戸教会 地区伝道援助、
ホームページ設置、2万9千
円を申請

以上、一から三を承認した。

●主な協議事項

一、地区委員会主催集会に関す
る件①地区総会開催に関する件
・各奉仕者等について、四役会
に付託する。②信教の自由を求める2・11
日時と会場 2025年2
月11日 (火) 15時～16時半

・会場 大宮教会

・講演者とテーマ 安田眞先
生、「平和のために祈ろう」
Pray for Shaan」講演後に

祈り会。以上、可決した。

二、クリスマスプレゼントに関
する件・隠退教師17名、8万5千円と
する。以上、可決した。

2024年度第6回委 廻

●主な報告

日時と会場 1月14日 (火) 会
場 上尾合同教会、出席10
人、2月14日 (金)

会場 大宮教会、出席11人

一、地区内の教会・教師の報告

①懇談報告…埼玉中国語伝道
所、桶川伝道所②新年合同礼拝 1月13日 (月)
・会場 聖学院大学チャペル・説教 栗原清牧師、子ども説
教 甲賀正彦牧師、199
人・48教会伝道所が出席し
た。・席上献金 18万560円、
地区デー 35万3300円。③総合協議会 2月11日 (火)
各委員会・各部より代表者
各1人と地区委員会との協
議会を行なった。16人出席。④信教の自由を求める2・11
集会安田眞先生の講演会に、68
人、17教会・伝道所が参加。

互助申請に関する件

・教団年金掛金補助
秩父教会

教会分2915円

教師分2970円 (月額)

・教会互助
秩父教会 96万円、加須教会
914万円、鳩山伝道所 64万円。
・教区伝道支援
上尾使徒教会 トイレ改修
工事費 5万円を申請。
以上、承認した。

●主な協議事項

一、地区委員会主催集会等に関
する件①地区総会について
・総会議案報告書の校正
2月17日 (月) 10時～16時、初
雁教会にて。四役に付託す
る。以上、可決した。・総会準備会
(1) 3月11日 (火) 14時半～
17時半、上尾合同教会にて。(2) 地区総会当日の各担当者
等については、四役に付託す
る。

以上、可決した。

編集後記

5312号は、多くの委員会活
動報告などに加え、2箇所の教
会を紹介いたしました。他に
も、集会や活動がそれぞれに工
夫され、新たな企画をも加えな
がら行われていることを伺う
ことができます。寄稿くださっ
たみなさまに感謝いたします。

(町田さとみ)



婦人部だより

No.41

婦人部の活動

委員長 鴻野 清美

主の御名を賛美いたします。
神様の召命により皆様の協力を得て委員長を2期続けることが出来ました事を感謝します。

昨年の会員は684名でしたが今年度は643名です。3

年ぶりの総会は大宮教会で22教会・伝道所66名の参加者。事前にアンケート調査を行った成果もあり、質疑応答も活発に行われました。

次に活動報告です。アジア学院学生ホームステイが一泊二日で再開し、3名を受け入れ、助成しました。

関東教区総会が6月7日新潟で開催され、7名参加。8日の佐渡教会訪問ツアーには5名参加。信徒の激減した佐渡教会の伝道の課題を知る訪問でした。

全国委員研修会が6月18日～19日に大宮教会で開催されました。埼玉地区から対面で54

名、オンライン15名の参加。埼玉地区婦人部委員は献金当番

の奉仕。大宮教会、関東教区委員と共にスキット(寸劇)に参加し自主献金の大切さをお伝えしました。

2日目の分団では全国の方の様々な意見を聞くことが出来る感謝でした。

6月25日女性教職と牧師婦人の集いが大宮教会で行われ助成しました。

もより婦人研修会は10月～11月にかけて7ブロックすべてが対面で行われました。

ACWCJ(アジア教会婦人会議日本委員会)2024年

一日研修会は銀座教会で9教会、23名の参加。在日外国人教

育生活相談センター・信愛塾センター長の竹川真理先生が子供たちに大人気の王さんをお連れして熱いメッセージを語られました。

2025年「世界祈禱日」については各区の担当教会に準備していただきました。NCCからの依頼でクック諸島の婦

人たちを覚えて式文に基づいて礼拝と献金を捧げます。

日本のクリスチャン人口は1%を切りました。コロナ禍を経て徐々に以前の生活に戻っています。高齢化の波は礼拝や祈禱会への足を遠のかせています。

2期4年の委員長の奉仕で一番難しかったのは次期委員の選出です。5月末から11月初旬迄要しました。今後、人数を減らす、半分ずつ委員の選出を交代する等、考える必要があるかと思っています。

私の好きな聖句はコリントの信徒への手紙一10章13節の「神は耐えられない試練に遭わせず試練と共に逃れの道も備えていてくださいます。」常に神様が祈りを聴いてくださっています。

今後共、婦人部の活動に皆様の御加禱、御協力を宜しくお願い致します。

もより婦人会研修会

委員長 鴻野 清美

「もより婦人研修会」はブロック毎に9月～11月につ

2025年度もより婦人研修会担当教会

ブロック	2024 年度	2025 年度
1	川 口 教 会	久 美 愛 教 会
2	東 大 宮 教 会	聖 学 院 教 会
3	春 日 部 教 会	越 谷 教 会
4	加 須 教 会	上 尾 合 同 教 会
5	小 川 教 会	武 蔵 豊 岡 教 会
6	所 沢 武 蔵 野 教 会	志 木 教 会
7	深 谷 教 会	本 庄 教 会



て担当教会のご協力をいただき行うことが出来ました。

◆第1ブロック

川口教会担当

「最寄り婦人会」報告

寺岡シホ子

10月31日、川口教会を会場に埼玉1区最寄り婦人会を開催。出席は5教会より34名。講師は長野波田教会の川本恵子牧師。事前に川口教会でLGBTについての学びを続けていたもので、当事者でもおられる講師をお呼びし、お話を伺うことが出来て幸いでした。この問題については教団内でもいろいろな見解があることを承知していますので、ご批判が寄せられるのではないかと思います。したが、その心配が不要であったばかりでなく、出席者からは、良い学びが出来たと喜びの声に感謝が寄せられました。

◆第2ブロック

東大宮教会担当

「殺伐とした世界で」

土井久美子

第2ブロックもより婦人会は「キリストの平和を求めて」をテーマに、久保島理恵牧師が講演されました。1部ではパウ

ロが生涯求めたキリストの福音は全世界のすみずみまで御手が届くという壮大なスケールだと力強いメッセージであった。2部は事前に我が婦人会員によるアンケートをもとにした講演であった。

アンケートでは、65%の人が今の世は平和でないと感じ、95%の人が平和のために祈っているとの結果だった。

この殺伐とした世で、神の平和に生かされている私たちはどう生きるべきかを深く知る恵みの時であった。

◆第3ブロック

春日部教会担当

「もより婦人研修会」

斎藤 二元子

今年度は春日部教会で行われた。御心に叶った神様の恵み溢れる研修会が行われたことに感謝している。

平澤巴恵伝道師の礼拝説教と平澤巧牧師の講演も心に響き聞く者の感動が伝わってくる素晴らしいものだった。

阿部ひろ子姉による司会で各教会や伝道所の会員の紹介に続き、現状については、学びの時を持ち「神様に聞く」という本の輪読会や、年四回の広報

誌の発行、聖書の輪読会の実施等報告された。

問題は高齢化による信徒の減少である。問題は山積しているが無事終了できたことに感謝、更なる主の導きを祈ります。

◆第4ブロック

加須教会担当

「賛美の時、恵みの時」

舟生まゆみ

第4ブロックでは、豊かな交わりの時を持つため、事前にアンケートで歌いたい賛美歌を各教会に聞きました。賛美歌指導も含め、阿瀬見知恵子氏（マクロバー）と共に賛美の時を持ちました。

7曲賛美しましたが、奇しくも3曲が平和に関係する曲でした。「子ロバの歌」は、平和の主が、子ロバに乗ってエルサレムに入城する歌。シベリウス作曲の「フィンランディア」。そして、獄中にあるボンヘッファーが婚約者に宛てた手紙に同封されていた「善き力にわれ囲まれ」でした。主の恵みに感謝です。

◆第5ブロック

小川教会担当

「平和を望みつづ」

岡部 洋子

第5ブロック婦人研修会是小川教会が会場で開かれしました。8教会の内4教会の参加でした。

教会員の高齢化と共に行事が行いづらい状況となつている事を感じます。当教会も婦人会としての活動が難しくなり、ぶどうの会と名を改めて、誰でも参加できる会となりました。開会礼拝で末牧師から「誰もが平和を望む」と題した説教と講演がなされました。「今、世界の平和が脅かされている中、主題のキリストにある平和と共に追い求めよう」との詩を深く心に刻んだ日となりました。近隣教会の方々と礼拝を守り、交わりが持てたことに感謝を致します

10月23日、昨年度より対面の研修会で、8教会から36名が参加されました。

◆第6ブロック

所沢武蔵野教会担当

「思い悩むな」

北野 弘恵

教会婦人連合の年主題箇所から離れ、マタイによる福音書の山上の説教からの研修会で

した。

「私達には多くの悩み、苦しみがあつても、空の鳥、野の花を見て、それらは自分達が考えなくても糧が備えられている。神様から息を吹き込まれている人間は、神の国と義を求めれば与えられる。思い悩むことはない。主イエスは実を結ぶ結果を望んでおられ、よい木はよい実を結ぶのであるから、主イエスに繋がること。」との言葉に励まされました。

◆第7ブロック

深谷教会担当

「平和向上委員会」

廣前 成子

第7ブロック婦人研修会は11月2日深谷教会を会場に佐藤嘉哉牧師より礼拝説教は「平和向上委員会」でした。

続く講演は岡田斗司夫の講演をもとに行われました。質問①「最悪な平和」②「まだマシな戦争」を基に、「今つて本当に平和か？」との問いかけがありました。世界で起きている戦争、若年者の自殺、貧困、飢餓の状況を現実問題として深く考えました。28期主題の「キリストにある平和を共に追い求めよう」との言葉に、キリス

ト者としての姿が問われます。茶話会では4教会の皆様と交わりの時を持ちミニバザーも行われ、心満たされた集会でした。

皆様に感謝いたします。来年は本庄教会です。

婦人部委員会陪席となつて

越谷教会 古澤ひかる

4月から地区委員として、婦人部委員会に出席させていただいております。頼りない陪席者を、委員の皆さんはいつもあたたかく迎え入れてくださり、本当に感謝です。

今婦人会は、どこでも会員数の減少が課題であると言われております。コロナ禍が明け、様々な集まりが再開されました。どうかこれから開かれる一つひとつの集会に一人でも多くの参加者が与えられ、婦人会同士の繋がりがより強くなりますようにと祈ります。

主イエスの旅には十二弟子の他に、多くの婦人たちも付き従いました。教会でも私達婦人の力は大変重要です。これから、力を合わせ互いに知恵を出し合つて、共に主の御業のためう願っています。